

つながる・ひろがる交流会～蓬来学区～

日時：平成 30 年 2 月 2 日(金)

14:00～15:30

場所：名東区役所 講堂

テーマ 「高齢者いこいの場」について

1 概要

蓬来学区では高齢者向けの様々なサロンの運営をしている。転入者が多いという街の特色もあり、引きこもりがちになる高齢者に社会的な生活の場をとということで、地域活動として積極的なサロン運営の展開をみせている。

コミュニティセンターを中心に行われる様々なサロンは地域の楽しみ場となっている。また、サロン運営には運営側、参加者双方にやりがいがあり、これもまた高齢者に地域活動の場を用意するという学区側の想いと合致している。



2 課題

- ・偏りなくいかに参加者を増やしていくか。
- ・サロン運営をするにあたり、世話役の不足。

3 意見交換の主なやりとり

(質問 1) 〈区政協力委員〉

うちの学区で色々と催し物をやっても、参加者の多くは女性であり、男性の参加が非常に少ないです。以前は男性の参加が非常に少なかったけれども、最近は増えたということですが、どのようなやり方で増えたのかということのをうかがいたいのが 1 点。また、サロン事業が社会福祉協議会の助成を受けているということですが、そのあたりの仕組みを教えてください。

→ (回答) 〈蓬来学区連絡協議会会長〉

男性の参加が増えたことについてですが、はっきりとした理由は分かりませんが、しいて言えば、声をかける区政協力委員に男性の方が多いので、その過程で男性の参加が増えたのかなというくらいです。

→ (回答) 〈社会福祉協議会事務局長〉

現在、サロンの助成金は市の助成金と区の社会福祉協議会の助成金とございまして、市の助成金は初期の設置の助成金がまず 5 万円。次に運営の助成金が月 2000 円です、ただし運営の助成金は、月 2 回以上行われているサロンに対して出ます。次に区の助成金は私どもの社会福祉協議会の地域福祉基金を財源にいたしまして、月 3000 円の運営助成金という形でやらせていただいております。区の社会福祉協議会の助成金の方は月一回以上実施していただいているサロンに対して出させていただきます。ただ、サロンといいますのが、

なんでも集まりであればサロンとさせていただいておりません。どなたでも自由にお越しいただける集いの場となっているサロンに対して助成金を出させていただいております。助成金については以上でございます。

次に男性の参加の少なさについて、どこの学区さんもそれを意識してみえて、男性が出てきやすいように、囲碁将棋などを積極的に取り入れてらっしゃるところもあると思います。また、男性に役割を持っていただき、そうすることでご参加いただけるようにしているという仕組み作りを進めておられるサロンも多々あるように思っております。

（意見 1）〈区政協力委員〉

サロン運営の支援において、一人暮らしの男性にいかに参加してもらうかということで色々工夫をしております。その一環として、昨年の秋に麻雀のサロンを立ち上げました。これからの課題として、いかに一人暮らしの男性が楽しみに出てきてくれて、そして毎回出てくるという状況をどのように作っていったら良いのかという事を考えております。

（意見 2）〈区政協力委員〉

高齢者にとっては移動の手段が非常に問題になります。サロンの会場が遠いと来られない人も多いです。うちの学区はコミセン以外の場所も会場としています。これはコミセンに来られない人にも是非参加してほしいという思いからです。これからのサロンは地域的に細かく行い、会場を増やし、どこでも行けて近くにあるという形を作りたいと思っております。

（意見 3）〈コミュニティサポーター〉

サロン運営について地域役員と参加者の方の切り分けをせず、役割を渡し、自主的な運営を行うということは非常に良い取り組みかと思いました。あと、皆さんが参加しやすい仕組みを作り、地域活動のスタートのハードルを下げるということは凄く良いことだと思います。転入者の方が多いという話がありましたが、50年前に山だったところから街を作ってきたのだよという話を次の世代に繋げていただき、歴史が無いということではなくてこれから歴史を作っていくという意識でこれから活動していただけると良いかなと思います。

4 まとめ

〈蓬来学区連絡協議会会長〉

本日の話題以外にも、やりたいと思うことや着手を始めている活動がいくつかあります。今日は高齢者の話題を中心に上げましたが、防災その他のことについても活動をより活発にさせていきたいと考えております。

〈名東区長〉

若いと言っても名東区も高齢化が進んでまいります。ずっとお住まいの方も当然ながら一つずつ歳をとっていかれるわけですので、そういった方々がいつまでも活躍できて、生きがいをもって暮らせる社会を作っていくのはもちろん行政である私どもの責任でもあります。ただ、そこにお住まいの方々に想いや行動でもって、つながっていただくというそういう意識、気持ちといったものも必要なのかなと思います。お互いに手を携えて、そんな社会をつくっていくことが出来たら良いなと思っております。